

なんじゃもんじゃ

Vol. 29

Municipal Ena Hospital Public Relations Magazine

恵那病院ホームページはこちら

<http://www.enahp.enat.jp/>

INDEX

とある診療日誌	…1
年報編集委員会	…2
新しい仲間のご紹介	…3
セカンドオピニオンについて	…3
外来担当表	…4
クイズ	…4
編集後記	…4



当院は平成22年より
(財)日本医療機能評価
機構の認定を受けてお
ります。

とある診療日誌 (登場人物は仮名です)

私は市立恵那病院に勤めたあと、4年前から山岡診療所に勤務しています。診療所は外来が主で、病院のように入院患者を受け持ったり、複雑な手術や検査をしたり、救急車を受け入れたりすることはあまりありません。そのかわり学校や会社の医師(学校医/産業医)を務めたりなど、病院の勤務医があまりしないようなこともしています。

そんな診療所医師のある日の診療日誌を覗いてみましょう。

今日の8人目の患者さんは大木曾強さん。診断は糖尿病と心臓弁膜症。病気の進行の程度を知るために眼底検査と心エコー検査を受けてもらいたい。検査が必要なことは理解していただけた。しかし診療所では検査できない。恵那方面の眼科に通院中とのことなので眼底検査はそこをお願いすることにし、恵那病院の心エコーを電話予約した。

15人目の患者さんは火野高さん。今日はぼーっとしていて元気もない。診断は肺炎。ぐったりして入院が必要な状態。恵那病院に電話をかけて受け入れをお願いした。

17人目の患者さんは東尾遥さん。家族が病院からの紹介状を持って来られた。自宅療養を希望され退院となった血液癌末期の方。この先は診療所でお願ひしたいとのこと。自宅で休んでおられるという本人の様子を見に行くため、明日午後の往診のリストに追加した。

午後からは恵那病院に行き大腸内視鏡検査をする。今週は大腸癌検診で要精査判定を受けた前藤久さんと、肛門からの出血を検査してほしいという北尾駿さん。二人とも山岡から予約を入れた方。さほど年間検査件数の多くない大腸内視鏡検査の設備を山岡に置くのは無駄だと考えている旨説明して病院まで出

山岡診療所 改田 哲



向いていただく手間を了承していただいた。

おことわり：「診療日誌」は診療体験から合成したフィクションです。個人と一致することがあるとするなら全くの偶然であり、個人(や山岡地区)を貶める意図は皆無です。

こうやってほんの一部だけをみても診療所と病院は始終患者さんを紹介したりされたりしています。

わが国は医療スタッフや設備が需要を十分満たしてしているとは言えません。恵那市もしかりです。しかしバラ色の青写真を夢に描く時代でもありません。そんななかで医療だけは聖域でどンドン人やお金がたぎ込まれるというのはちょっと非現実的です。

となれば限られた人的物的資源の範囲で医療を展開する方策を考えなくてはなりません。

診療日誌にあげたように診療所の日常の診療も病院と表裏一体です。病院の医療スタッフや設備がなければ診療所の診療活動も成り立ちません。病院の医師が疲弊して機能停止してしまったら地域の診療所(それはほとんどすべての開業医を含みます)はみんな機能不全に陥ります。

だから私は「必要以上に病院に依存せず手伝えるところは手伝う」ことをこころがけています。このやり方が唯一の正解ではないとも思います。みなさんも提案をしてください。一緒に考えていきましょう。





年報編集委員会について

目的

年報編集委員会の目的は市立恵那病院において発行される年報及び記念誌について、市立恵那病院の業績及び事業内容等を広く周知することです。よって、当委員会では、病院で診療している実績等を年報として掲載する内容等を検討しています。

当院は平成15年12月に国から恵那市へ移譲となり市民病院として開院しています。開院当初は年報を作成していませんでしたが、浅野病院長の提案があり平成19年を皮切りに始まり今年で6冊目の発行を予定しています。年報第1号は83ページの内容でしたが、平成23年版では197ページと大幅に増加しています。もちろん、掲載内容等についても委員会で検討していますが、文書を作成するために、忙しい業務の合間を縫って、多くの職員にご協力を頂いて今のボリュームの年報が維持できていると本当に関係職員には感謝しております。

活動内容

当院で発行する年報の内容は大項目で6項目あります。①病院概要、②業務報告（医局・看護部・医療技術部等）、③研修報告、④委員会報告、⑤行事報告、⑥統計資料と分かれています。特に④の委員会活動は、平成24年度からすべての委員会活動報告を掲載するようにお願いしているところです。また、年報の内容をより見やすくするために平成23年号から本の小口に色をつけて、ページが検索しやすいように改良をしています。委員会開催は毎月開催を予定していますが、年度初めから年報作成が終了するまでは月に2回も開催することがあります。また、年報作成が終了すると反省会

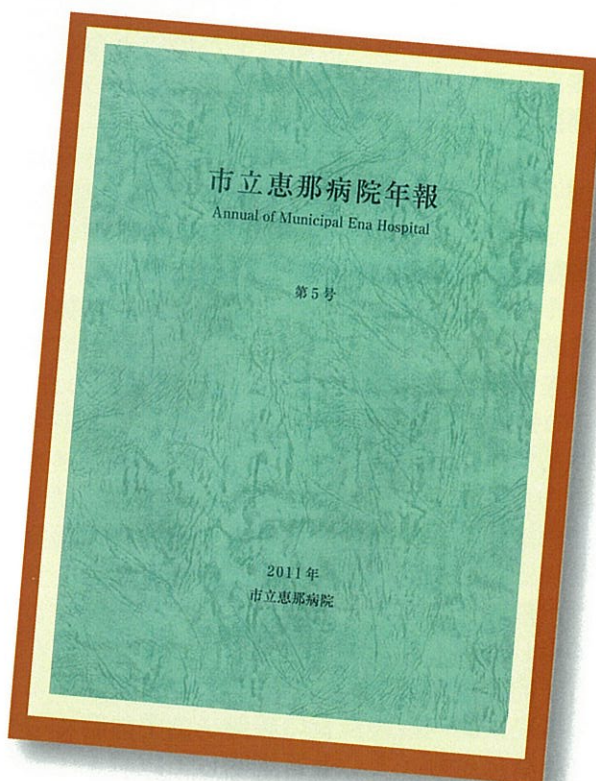
をして次年度によりよいものを作成したいと話し合っています。そのため、年度後半は委員会活動が少なくなります。今年も2月26日に委員会を開催しましたが、その内容は他施設の年報を各委員で読んで当院の年報と比較して、内容について検討することでした。

目標

平成24年の年報も昨年の内容にひけをとらないようにしたいと年報編集委員を筆頭にして職員一同にご協力頂き、皆様に閲覧していただける年報の発行できたらと思っています。

また、平成28年度には新病院開院を目指していますので、その病院建築に向けての基礎資料として活用や患者様への情報提供に活用していただければと思います。

（年報編集委員会 今井 裕志）





新しい仲間のご紹介 ～皆さま、どうぞよろしくお祈いします！～



岩田 暁
【医師】



水谷 和也
【薬剤師】



伊藤 三穂
【臨床検査技師】



加藤 好伸
【理学療法士】



吉村 由佳
【作業療法士】



安藤 雪乃花
【看護師】



米須 美和
【看護師】



原 美咲
【看護師】



藤田 有美
【看護師】



安江 由衣
【看護師】



山本 知加
【看護師】



和田 綾子
【看護師】



加藤 智香
【看護師】



樫山 顕子
【ケアスタッフ】



林 ふさ子
【ケアスタッフ】



「セカンドオピニオン」はご存じですか？

当院ではセカンドオピニオンを推奨しています。セカンドオピニオンとは、それまで、診療をしていた主治医を代えることではありません。診療している主治医と良好な関係を保ちながら複数の医師の意見を聞くことがこの言葉の意味するところです。医療の進歩はとても早く、最近では「再生医療」などの言葉も新聞・ニュースなどで耳にすることが多くなっていると思います。また、医師によってはあなたの病気に対する診療の仕方

に違いがあるかもしれません。その意見を聞くことで、さらに主治医と今後の治療について相談して、納得していただく方法としてご利用頂きたいと思えます。但し、多くの病院でセカンドオピニオンは診療代が自費になりますので、希望する病院に電話をしたり、ホームページなどで診療代をご確認ください。

病気のことで他の医師に相談したい場合は、当院の医師にお気軽にご相談ください。